

2012年(平成24年)5月12日(土曜日)

岐阜県版 22

岐阜県版

岐阜支社

〒500-8875
岐阜市柳ヶ瀬通一丁目12番地
058(265)0191
Fax(262)8706
(販売)(265)0265
(広告)(266)4791
(事業)(265)0267

多治見支局
0572(22)3121
Fax(23)5331

大垣支局
0584(78)2030
Fax(74)6460

高山支局
0577(32)0350
Fax(34)5215

関支局 0575(22)3234
Fax(24)3939

ご意見は読者センターへ
052(221)0800
Fax(221)0819
Eメール

center@chunichi.co.jp
掲載写真を購入希望の方は
最寄りの中日新聞販売店へ

県内の障害者短期入所78施設

超重症者対応は25力所

東濃の保護者ら 県に改善を要望

障害者の短期入所(シヨートステイ)を受け入れている県内七十八施設のうち、医療行為が必要な重度障害者に対応できるのは四月現在で、二十五施設にとどまっている。中でも東濃地方は二事業所と少なく、保護者らが十一日、県に改善を要望した。(山本真嗣)

県の川出達恭健康福祉部長官に東濃の重症心身障害者のシヨートステイ施設充実を求める保護者ら。県庁で



短期入所は障害者自立支援法に基づくサービスの一つ。施設に一日、数日間、障害者が滞在、その間、保護者や介護者が用事を済ませたり、休養したりする。県の二〇一〇年の調査では県内で身体と知的障害のある「重症心身障害者」は八百七人。うち胃ろうやたんの吸引などの医療行為が必要な「超重症・準超重症者」は判明分で七十二人。保護者らは付きき

きりで介護している。県が四月、短期入所施設として県指定を受けている七十八施設に調査したところ、重症心身障害者を受け入れ可能と答えたのは四十一。うち超重症・準超重症者に対応できるのは二十五力所で、地域別の内訳は岐阜七、西濃五、中濃八、東濃二、飛騨三だった。県によると、看護師不足や事故への懸念、患者の診療報酬に比べ障害者の介護報酬が低く設定されていることなどから受け入れが進んでいないという。状況を改善しようと、東濃地域の重症心身障害者の親でつくる「重度障がい児者」

シヨートステイを考えた。次男(こを)を会った。川出達恭健康福祉部長官に面会。多治見市の県立多治見病院での受け入れや他の施設、病院への指導を求める要望書を送る」と話していた。

第3種郵便物認可

川出達恭健康福祉部長に要望書を手渡す深尾貴子副代表(中央)＝県庁



東濃でも短期入所を

重症心身障害児者 家族が県に要望

東濃地域の重症心身障害児者の家族でつくる「重度障がい児(者)ショートステイを考える会」は11日、たん吸引や経管栄養といった医療的ケアを必要とする児者らも一時的に預かる短期入所事業が東濃地域の県立多治見病院などで実施されるよう県に要望した。

同会の深尾貴子副代表(39)＝多治見市＝ら、障害児を含む9家族計17人が県庁に川出達恭健康福祉部長を訪ね、「岐阜市など遠くにある病院の利用は困難。地域で安心して暮らせる環境を整えてほしい」と訴えた。東濃の各市の基幹病院でも実施されるよう県の働きかけも求めた。

川出部長は「看護師などマンパワーの確保が最大の課題。実るかどうかは約束できないが、何とか一生懸命努力したい」と述べ、地域での受け皿確保に努める考えを示した。

県によると、東濃地域で医療的ケアを必要とする児者の短期入所を受け入れられる医療機関は空きベッドを利用している多治見市民病院のみで、昨年度に利用できたのは1人。片道1時間前後かかる愛知県春日井市の施設などに預けている家族もいる。

(小森直人)



記事の
読者広

ニユ

編集局

編集局Eメール

西濃支社

東濃総局

ひだ高山総局

中濃総局

美濃加茂総局

各務原支局

羽島支局

本巣支局

揖斐支局

海津支局

恵那支局

中津川支局

飛騨支局

下呂支局

郡上支局

可児支局

本紙の月

朝

朝

東濃・重度心身障害児の病院預かり

県、報酬上乘せ検討

重度の心身障害者の子どもを持つ東濃地方の母親たちが11日、県立多治見病院で一時預かりを実施するよう求める要望書を県に提出した。同病院は一時預かりに必要な看護師が不足しており、県は介護報酬の上乗せなどで他の受け入れ先を確保することも含めて検討する。

この日、「重度障がい児(者)ショートステイを考える会」のメンバーら8人が、子ども7人と県庁を訪問。長男(15)が重度心身障害がある多治見市の深尾貴子さん(39)は「医療行為が

必要な子どもを受け入れ先が少ない。みんなが受け入れてもらえる状況にしてほしい」と話した。

県内には、重度の心身障害者約800人が在宅で暮らす。一時預かりの利用は、国や県の施設がある岐阜地域に偏っている。東濃地方では多治見市の別の病院で実施してきたが、断られることが多いという。

県によると、重度の障害者受け入れには介護保険が適用される。ベッドを1日使用すると約3万円の介護報酬が出るが、入院の医療報酬より約2万円少ないと

いう。県は差額を上乘せする制度を検討する。

ただ、受け入れに必要な看護師の確保が難しい。県立多治見病院の看護師数は4月現在で458人で、基幹病院の機能維持の目安となる「7対1」看護に92人足りない現状だ。県の川出達恭健康福祉部長は「皆さんの気持ちを受け止めて、努力したい」と話した。

岐阜

浅井耳鼻咽喉科

JR岐阜駅南口、南へ200m

(058)271-8790

岐阜総局
〒500-8076
岐阜市司町31
058-263-4125
FAX 262-6661
Eメール:
gifu-mytown@
asahi.com
高山支局
0577-32-0193
FAX 32-3364
岐阜東部支局
0572-22-0745
FAX 22-0194
大垣支局
0584-81-3360
FAX 81-3361
中津川支局
0573-66-1552
FAX 66-1558

岐阜マイタウン
<http://mytown.asahi.com/gifu/>

ご購入・配達
0120-33-0843
058-277-5771
紙面へのご質問は
052-221-0347
紙面へのご意見は
052-221-0337
広告
058-264-5186

岐阜

情報をお寄せ下さい

岐阜支局

〒500-8463 岐阜市

加納新本町3-1

058-275-4166

FAX

058-276-9969

Eメール gifu@

yomiuri.com

通信部

大垣

0584-74-6161

多治見

0572-24-0091

中津川

0573-66-1180

下呂

0576-24-1084

高山

0577-33-1040

社会部

052-211-1151

読者相談

052-211-1009

社内見学申し込み

052-211-0059

販売部

052-211-0037

購読申し込み

フリーダイヤル

0120-4343-81

折り込み申し込み

058-276-8758

広告申し込み

058-212-3180

県立多治見病院に 短期入所の整備を

障害者家族ら要望

東濃地域の重症心身障害者の家族らが11日、県に対し、県立多治見病院(多治見市)などで短期入所を受け入れる態勢を整えるよう要望した。

県によると、重度の肢体不自由と知的障害を併せ持つ重症心身障害者は、県内に約800人いる。ただ、重症者の受け入れが可能な事業所は県内に11施設で、東濃地域には多治見市民病院1か所しかないという。

同市の原美奈さん(36)

は、長女(12)が脳性まひで、長男(8)や次女(5)の授業参観に行くには、長女を短期入所に預けなければならぬ。しかし、前日に入所を断られることが多いという。原さんは「大きな病院で短期入所の受け入れ態勢を整えてほしい」と訴えた。

県によると、看護師や介護士の不足、医療ミスへの懸念から、重症心身障害者の短期入所受け入れをためらう病院も多い。川出達恭・県健康福祉部長は「県として知恵を出し、課題を乗り越えたい」と語った。

忠節大通り交差点 東へ100m

医療法人 黎明会(れいめいかい)

高橋眼科

〒500-8463 岐阜市早田栄町丁目23番地

電話 058-211-4398

岐阜

gifu@mainichi.co.jp

岐阜支局

〒500-8812
岐阜市美江寺町
1-12
☎058-265-5533
FAX058-262-5082

大垣通信部

☎0584-78-2290
FAX0584-78-2391

高山通信部

☎0577-32-0647
FAX0577-34-6866

各務原担当

☎058-265-5533
FAX058-262-5082

多治見通信部

☎0572-22-1724
FAX0572-23-9021

広告

岐阜毎日広告社

☎058-262-1191
FAX058-262-1195

購読

☎0120-468-012

「重症心身障害者」ショートステイ

受け入れ施設不足

重度の知的障害と身体障害を併せ持つ「重症心身障害者」を一時預かり(ショートステイ)で受け入れる県内の医療機関・福祉施設が不足している。慢性的に看護師が足りない上、ショートステイに適用される介護報酬額が、入院による診療報酬に比べて低く、二の足を踏む施設が多いとみられる。

土岐市に住む40代の女性は毎晩2〜3時間おきに目を覚ます。小学6年の次男(11)のどにしまったたんを吸引機で吸い、寝返りの代わりに姿勢を変え、また浅い眠りにつく。次男は1歳で細菌性髄膜炎を患い、24時間態勢で介護が必要になった。たん吸引のほか、鼻に管を通して栄養を摂取するなどの医療的ケアが必要な「超重症・準超重症」に区分されるという。

普段は在宅で介護するが、月2回程度、兄弟の学校行事や急用などの際にショートステイを利用する。向かうのは片道1時間以上かかる愛知東春日井市内の障害者施設。地元で受け入れ先がないためだ。

東濃地域には、超重症・準超重症に対応できる施設が2カ所あるが、受け入れ条件は厳しい。地域の拠点病院である県立多治見病院は、人員不足を理由にショートステイを実施していない。県による

看護師も要因 低介護報酬も



要望のため県庁を訪れた重症心身障害者ら

症・準超重症に対応できる施設が2カ所あるが、受け入れ条件は厳しい。地域の拠点病院である県立多治見病院は、人員不足を理由にショートステイを実施していない。県による

と、同病院の機能維持に必要な看護師数550人に対し、4月現在で92人足りないという。女性は「遠くの施設は移動だけでも負担。地元ではないので、

いつか拒否されるのではという不安感もある。近くで安心して預けられる体制を整えてほしい」と訴えている。

超重症対応は3割

地区別施設の偏在も課題

重症心身障害者を子供に持つ東濃地域の保護者らは11日、県立多治見病院でショートステイを実施することなどを求める要望書を県に提出した。県は「現状では厳しいが、まずは近隣病院で対応できるように努力したい」としている。

【三上剛輝】

障害者のショートステイの受け入れ先として県から指定されている78事業所のうち、気管切開やたん吸引などの医療的ケアが必要な重症心身障害者に対する対応できるのは3割に当たるとする。県は今年度、新規に受け入れを決めた施設に設備改修費などを助成する制度を新設したが、申請はゼロ。13年度以降、受け入れ施設に支払われる法定の介護報酬に、独自の補助金を上乗せすることで事業所を確保する対策の検討も始めた。

各務原・内藤記念くすり博物館

小野菊山企画展

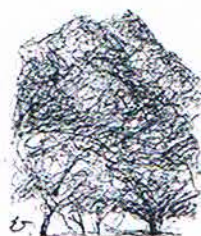
小野菊山(谷文晁画)企画展図録から

八幡神社一帯で
大垣まつり開幕

市民ら参加

しい

東濃



金華山 (I)
中部自由美術協会 森谷 連
(岐阜市岩井)

多治見支局
〒507-0037
多治見市音羽町4-39
0572(22)3121
Fax(23)5331

恵那通信局
0573(26)2525
Fax(26)5209

中津川通信局
0573(66)1246
Fax(62)0108

可児通信部
0574(62)1501
Fax(61)0270

岐阜支社
〒500-8875

岐阜市柳ヶ瀬通一丁目12番地
058(265)0191
Fax(262)8706
(販売)(265)0265
(広告)(266)4791
(事業)(265)0267

内科・消化器内科
しもむら

岐阜市

「普通に生きる」問いかけ

重度障害児らの生活

ドキュメンタリー上映



市内の親らでつくる「重度障がい児(者)のシヨートステイを考へる会」が主催。市まちづくり活動補助事業の交付金を受けて実施し、市民ら四百人が参加した。

上映作品は静岡県富士市の生活介護事業所「でらーと」の活動を追ったドキュメンタリー「普通に生きる」。

親が福祉の担い手として自らの望むサービスをつくる軌跡を描いている。

参加した名古屋市長は今年新たにケアホームを開設した経緯や課題を解説。「いろんな人から介護を受ける経験が子どもと親のためになる」と話した。

シンポジウムでは名古屋大の三浦清邦教授(五)をはじめ、作品の舞台となった同事業所の小林不二也所長(五)ら八人が登壇。小林所長は今年新たにケアホームを開設した経緯や課題を解説。「いろんな人から介護を受ける経験が子どもと親のためになる」と話した。

ケアホーム開設までの経緯を話す小林所長。多治見市総合福祉センターで。

山田の主婦本戸真美さん(三)は「親がすべて抱え込まず、親と子どもとの自立を促すことを目的とした施設の在り方を知ることができた」と話した。

重度の障害児や家族の生活を地域の人が知ってもらおうと、障害者通所施設を撮ったドキュメンタリー上映会とシンポジウムが十日、多治見市総合福祉センターであった。

(畑間香織)

多治見

静岡の事業所「いろいろな人の介護」大切
福祉活動追う

支援態勢づくり本腰

支えよう！
在宅の
重症児

医療ケアが必要な在宅の重症児への支援を充実させていくために、医学系の大学も本腰を入れていく。心ある医療者の育成を目指す名古屋大、地域のネットワークづくりの中核となっている三重大の取り組みを紹介する。

(編集委員・安藤明夫)

愛知県春日井市にある県心身障害者コロニー中央病院。外来の診察室で、車いすの原優華さん(20)＝岐阜県多治見市＝は、集まった医学生たちをキョロキョロと見渡した。

「一三四一」の低体重で生まれ、脳性まひによる身体障害、知的障害がある。幼いころから誤嚥性肺炎を繰り返して、唾液が気管に入らないように特殊なチューブを挿入する手術を受けた。

「前は、十五分に一回のたん吸引が必要で、通院のときも途中で車を止めてやっていました。今は一時間に一度ぐらいで、本当に助かっています」

苦勞をさげなく話す母親の美奈さん(36)に、医学生たちは自然と頭が下がる。名大医学部の五、六年生を対象にした病院実習のひとつだ。

愛知県地域医療再生計画の事業として、名大大学院に「障害児(者)医療学寄付講座」が昨年設けられた。重症心身障害児の医療に携わる医療者を増やしていくことが目的。就任した三浦清邦教授の発案で、同コロニー

大学の取り組み

☆下☆

親へのインタビューのほか、小児外科の外来や病棟、同コロニー内の重症心身障害児施設・こぼと学園の見学、勤務医との懇談も。「こういう世界もある」と知ってほしい。将来、医療の現場で重症の子と出会ったときに「分からん」と敬遠せず、優しく接することができるよう、優になってくれたら」と三浦教授。参加した医学生たちは「大変な中にも成長を感じ取り、深い

名古屋大 実習通し医療者育成

三重大 地域の力掘り起こす

愛情を注いでいる姿に感激した。「家族支援あつての在宅介護だと実感した」「胃ろうに否定的なイメージを持っていたが、成長するために必要だと分

ち、呼吸管理などの医療ケアが必要な子どもの診察に対応しているのは四十六カ所。訪問診療ト(二〇一〇年)でも、小児訪問看護の経験がある人は、26%の三十二人。呼吸器管理の不慣



院内の検討会で、子どもと保護者(左から)河本医師ら＝津市の三重大。また、医療的ケアをする子が、新生児集中治療室(ICU)などを退院す地域で訪問型の診療、ハビリができる態勢を



脳性まひの優華さんと接する名古屋大の医学生たち。左は三浦清邦教授＝愛知県春日井市の県心身障害者コロニー中央病院で

四月に福岡市で行われた日本小児科学会でも、在宅医療の現状についてさまざまな発表があった。群馬大の吉野浩之准教授(障害児教育学)は、アンケートを基に、二十四時間対応の訪問看護ステーションが増え、小児にも関わるようになったと報告。一方、医師による訪問診療は限られており、「在宅医が小児科医である必要はなく、病院の小児科医が在宅医として連携していくことが必要」と訴えた。

充実のかぎは病診連携

み、これまでに十四人をみとったことを報告した。宇都宮市で重症児の一時預かり施設を運営する高橋昭彦医師は、利用実績が安定しないなど経営上の課題を報告し、行政の施策の必要性を訴えた。

医療取材班 ▶ iryouhan@chunichi.co.jp

医療に関する過去の記事は「中日メディカルサイト」で閲覧できます



待ちに待った妊娠で、受診しまし約しても待つのは当察では、暫つけない花柳症が、中でも服薬方しても、局に行くんがけげん圧高いて、間違って薬が処方さうです。飲まないはされてい誤って処

「ホッ」
き、医
1(住
2(2